

## 第 34 期卒業生評議員選挙 立候補辞退について

2015 年 8 月

西富亮介

(平成 11 (1999) 政治)

2002 年の第 31 期選挙から、2006 年、2010 年、そして今回 2014 年と 4 回連続して、「一般推薦」(注 1) による候補者として、「卒業生評議員選挙」(注 2) に立候補し続けてまいりました。(2006 年には当選し、2010 年までの 1 期 4 年を評議員として勤めさせていただきました)

(注1) 立候補は、理事会が候補者を推薦する「理事会推薦」による方法と、塾員の連署(署名・捺印)を 100 名以上(150 名以下)集めることによる「一般推薦」の 2 種類がある。

(注2) 評議員は「①教職員(16 名)」「②推薦(25 名)」「③卒業生(30 名)」「④塾員(30 名)」の四枠 101 名によって構成されている。そのうち、③のみが「卒業生評議員選挙」の対象となっている。なお、この選挙に対して理事会は 50 名以上 60 名以下の理事会推薦候補者を立てることができる。

今回も、皆様に多大なるご支援・ご協力をいただき、7 月 1 日の締切日までに 137 名分の署名・捺印を頂戴し、選挙管理委員会に届け出る(注 3)ことができました。ご協力いただいたみなさま、改めまして、本当にありがとうございました。

(注3) 137 名分の署名のうち、選挙管理委員会によって正式に認められたのは 100 名分でした。37 名分は「塾員原簿に登録の住所と違う」「氏名違い(結婚による改姓など)」「卒業年の記載が違う」などで無効となりました。(なお、どなたが無効かは個人情報として教えていただけていません)

ただ、立候補届出後に、立候補の辞退を検討しなければいけない事態が生じてしまいました。(この場では詳細は申し上げられませんので、なにとぞご了承ください)

どうにか立候補を継続できないかと、いくつか方法を模索・検討し、諸先輩方にもご相談させていただいたのですが、最終的には立候補を辞退することを決意し、7月末に選挙管理委員会に届け出て、8月上旬に辞退が受理されました。

みなさまの「立候補/当選に向けて頑張ってもらいたい」という思いを形にいただいた署名を、私ひとりの判断で、水泡に帰するようなことになってしまったことは、ただただ申し訳ない気持ちでいっぱいです。

私としては、「評議員選挙に「一般推薦」として出ることで、評議員選挙の活性化、ひいては義塾社中の活性化を図る」「当選(再選)の暁には、評議員会の「活性化」「見える化」をより図る」ことを目指していたわけですが、今回この挑戦は道半ばで断念せざるを得ないこととなりました。

義塾に対しては、評議員会という場を通すことにこだわらず、これからも引き続き貢献していきたいと考えております。

まずは簡単ではありますが、立候補辞退についてご報告させていただきました。

これからも引き続き、ご支援・ご協力のほど、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

追伸：

7月下旬に選挙管理委員会から頂戴した資料(立候補者一覧)によると、一般推薦による立候補者は私1名でしたので、今回私が辞退したことによって、今回(34期)の卒業生評議員選挙の立候補者は全て「理事会推薦」となるようです。